

2024年度 グローバル人材育成プログラム科目一覧

グローバル人材育成プログラム科目	担当者	開講キャンパス	開講期	曜日	時限	単位数	配当年次	備考
留学準備科目群								
留学のススメ	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ※ハイブリッド科目	春	火	4	2	1~4	この授業はハイブリッド科目として実施します。対面科目として履修登録する方は、和泉キャンパスの指定教室で授業に参加してください。メディア授業科目として履修登録する方は、受講にあたり、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください
日本社会・文化理解講座	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ※ハイブリッド科目	秋	火	4	2	1~4	この授業はハイブリッド科目として実施します。対面科目として履修登録する方は、和泉キャンパスの指定教室で授業に参加してください。メディア授業科目として履修登録する方は、受講にあたり、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。
東南アジア理解講座	タンシリトンチャイ、 ウィライラック	メディア授業科目	春	木	5	2	1~4	この授業はタイとの遠隔授業（メディア授業科目）として実施します。定員は各15名です。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題（ショートエッセイ）の内容により、履修者を決定しますので、初回授業に必ず出席してください。受講にあたっては、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。
		メディア授業科目	秋	木	5			
国際協力理解科目群								
グローバル・イシュー総論	源 由理子	メディア授業科目	春	木	3	2	1~4	この授業はメディア授業科目として実施します。受講にあたり、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。
グローバル・イシュー各論	三牧 純子	メディア授業科目	春	木	4	2	1~4	この授業はメディア授業科目として実施します。受講にあたり、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。
ソリューション・アプローチ（国際システム）	三牧 純子	メディア授業科目	秋	木	4	2	1~4	この授業はメディア授業科目として実施します。受講にあたり、受講場所は問いません。視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。
海外留学科目群								
海外テーマ特化型研修	国際連携機構 特任教員	—	夏季・春季（集中）			2	1~4	
単位認定型留学	国際教育センター長	—	夏季・春季（集中）			2	1~4	
海外語学研修	国際連携機構 特任教員	—	夏季・春季（集中）			2	1~4	
単位認定型短期留学（語学）	国際教育センター長	—	夏季・春季（集中）			1	1~4	
単位認定型留学（語学）	国際教育センター長	—	夏季・春季（集中）			2	1~4	
実習科目群								
短期国際協力フィールドワーク（国内）	菊地 端夫	和泉	春	木	3	1	1~4	
単位認定型短期海外実習	国際教育センター長	—	夏季・春季（集中）			1	1~4	
海外実習	国際連携機構 特任教員	—	夏季・春季（集中）			2	1~4	
単位認定型海外実習	国際教育センター長	—	夏季・春季（集中）			2	1~4	
長期海外実習	三牧 純子	—	秋			8	2~4	国連ユースボランティア・プログラム 長期海外実習、海外実習課題研究は同時に履修することが条件となります。 また、履修する場合、当該学期に他の科目を履修することはできません。
海外実習課題研究	三牧 純子	—	秋			4	2~4	国連ユースボランティア・プログラム 長期海外実習、海外実習課題研究は同時に履修することが条件となります。 また、履修する場合、当該学期に他の科目を履修することはできません。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者																																																				
留学のスズメ	1～4年	春・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる																																																				
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>本講義は、全14回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を10回、担当教員による講義を4回行う。</p> <p>ゲスト講師による講義では、国際的に活躍する講演者の講師が海外留学や海外勤務等の経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的とする。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。</p> <p>担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士がお互いの考えを共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>学生は本講義を通じて、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。</p>																																																									
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>4/16</td> <td>イントロダクション 海外留学の意義</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>4/23</td> <td>「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活</td> <td>拜田 清 (和洋女子大学教授)</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>4/30</td> <td>English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法</td> <td>安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>5/7</td> <td>海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる!</td> <td>オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>5/14</td> <td>第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>5/21</td> <td>海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>高城 宏行 (玉川大学教授)</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>5/28</td> <td>南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]</td> <td>橘 広司 (金城学院大学准教授)</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>6/4</td> <td>海外で住むということ、コミュニティの中の共有 [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教頭兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>6/11</td> <td>海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び</td> <td>中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>6/18</td> <td>第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>6/25</td> <td>留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して</td> <td>吉野 康子 (東京家政大学特任准教授)</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>7/2</td> <td>「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]</td> <td>藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>7/9</td> <td>世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業 (オンデマンド型)]</td> <td>二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)</td> </tr> </tbody> </table>						1.	4/16	イントロダクション 海外留学の意義	仲谷 ちはる	2.	4/23	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活	拜田 清 (和洋女子大学教授)	3.	4/30	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)	4.	5/7	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる!	オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)	5.	5/14	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について	仲谷 ちはる	6.	5/21	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム型)]	高城 宏行 (玉川大学教授)	7.	5/28	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)	8.	6/4	海外で住むということ、コミュニティの中の共有 [メディア授業 (リアルタイム型)]	ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教頭兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)	9.	6/11	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)	10.	6/18	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について	仲谷 ちはる	11.	6/25	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して	吉野 康子 (東京家政大学特任准教授)	12.	7/2	「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]	藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)	13.	7/9	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業 (オンデマンド型)]	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)
1.	4/16	イントロダクション 海外留学の意義	仲谷 ちはる																																																						
2.	4/23	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活	拜田 清 (和洋女子大学教授)																																																						
3.	4/30	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)																																																						
4.	5/7	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる!	オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)																																																						
5.	5/14	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について	仲谷 ちはる																																																						
6.	5/21	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム型)]	高城 宏行 (玉川大学教授)																																																						
7.	5/28	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)																																																						
8.	6/4	海外で住むということ、コミュニティの中の共有 [メディア授業 (リアルタイム型)]	ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教頭兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)																																																						
9.	6/11	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)																																																						
10.	6/18	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について	仲谷 ちはる																																																						
11.	6/25	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して	吉野 康子 (東京家政大学特任准教授)																																																						
12.	7/2	「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]	藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)																																																						
13.	7/9	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業 (オンデマンド型)]	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)																																																						

14.	7/16	第11～13回振り返り及びまとめ	仲谷 ちはる
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>毎回の講義の冒頭に、Oh-o! Meiji の「出欠管理」機能を利用し、出欠確認を行う。</p> <p>また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。</p> <p>教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。</p> <p>本講座とあわせて、「日本社会・文化理解講座」(秋学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。</p>			
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。授業では、学生同士の積極的な議論や教員との質疑応答を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておく。授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。</p> <p>また、明治大学 (国際教育センター) が企画する海外留学に関するイベント (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/event_schedule/event_schedule.html) や、留学のための各種相談 (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。</p>			
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>			
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>Benson, P., Barkhuizen, G. Bodycott, P., & Brown, J. (2013). <i>Second Language Identity in Narrative of Study Abroad</i>. Springer.</p> <p>『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p>			
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。</p>			
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 授業における貢献度: 30%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) リアクションペーパー: 30%</p> <p>※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。</p> <p>(3) 期末レポート: 40%</p> <p>※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。</p> <p>※対面式での試験は行わない。</p>			
<p>9 その他 (Other)</p> <p>他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。</p> <p>また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。</p> <p>この授業はメディア授業併設科目として開講される。外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法について別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。</p> <p>対面での授業受講を希望する学生は、和泉キャンパス開講の科目を履修登録し、原則、全ての授業を和泉キャンパスの指定教室で受講すること。</p> <p>オンラインでの授業受講を希望する学生は、メディア授業科目とされている科目を履修登録し、原則、全ての授業をオンラインで受講すること。受講場所は問わないので、視聴端末及び通信環境等は各自で準備すること。</p> <p>なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。</p> <p>また、ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、Zoom のカメラをオンにすることを求める可能性がある。</p>			

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者																																																				
留学のスズメ [M]	1～4年	春・火・4	2単位	メディア授業 科目	仲谷 ちはる																																																				
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>≪概要 (Course Summary)≫ 本講義は、全14回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を10回、担当教員による講義を4回行う。 ゲスト講師による講義では、国際的に活躍する講演者の講師が海外留学や海外勤務等の経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的とする。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。 担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士がお互いの考えを共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>≪到達目標 (Course Objectives)≫ 学生は本講義を通じて、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。</p>																																																									
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>4/16</td> <td>イントロダクション 海外留学の意義 [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>4/23</td> <td>「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活 [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>拜田 清 (和洋女子大学教授)</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>4/30</td> <td>English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法 [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>5/7</td> <td>海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる! [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>5/14</td> <td>第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>5/21</td> <td>海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>高城 宏行 (玉川大学教授)</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>5/28</td> <td>南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]</td> <td>橘 広司 (金城学院大学准教授)</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>6/4</td> <td>海外で住むということ、コミュニティの中の共有 [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教頭兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>6/11</td> <td>海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>6/18</td> <td>第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>6/25</td> <td>留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して [メディア授業 (リアルタイム型)]</td> <td>吉野 康子 (東京家政大学特任准教授)</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>7/2</td> <td>「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]</td> <td>藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>7/9</td> <td>世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業 (オンデマンド型)]</td> <td>二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)</td> </tr> </tbody> </table>						1.	4/16	イントロダクション 海外留学の意義 [メディア授業 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる	2.	4/23	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活 [メディア授業 (リアルタイム型)]	拜田 清 (和洋女子大学教授)	3.	4/30	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法 [メディア授業 (リアルタイム型)]	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)	4.	5/7	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる! [メディア授業 (リアルタイム型)]	オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)	5.	5/14	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について [メディア授業 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる	6.	5/21	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム型)]	高城 宏行 (玉川大学教授)	7.	5/28	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)	8.	6/4	海外で住むということ、コミュニティの中の共有 [メディア授業 (リアルタイム型)]	ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教頭兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)	9.	6/11	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び [メディア授業 (リアルタイム型)]	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)	10.	6/18	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について [メディア授業 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる	11.	6/25	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して [メディア授業 (リアルタイム型)]	吉野 康子 (東京家政大学特任准教授)	12.	7/2	「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]	藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)	13.	7/9	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業 (オンデマンド型)]	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)
1.	4/16	イントロダクション 海外留学の意義 [メディア授業 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる																																																						
2.	4/23	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活 [メディア授業 (リアルタイム型)]	拜田 清 (和洋女子大学教授)																																																						
3.	4/30	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法 [メディア授業 (リアルタイム型)]	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)																																																						
4.	5/7	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる! [メディア授業 (リアルタイム型)]	オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)																																																						
5.	5/14	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について [メディア授業 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる																																																						
6.	5/21	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム型)]	高城 宏行 (玉川大学教授)																																																						
7.	5/28	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)																																																						
8.	6/4	海外で住むということ、コミュニティの中の共有 [メディア授業 (リアルタイム型)]	ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教頭兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)																																																						
9.	6/11	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び [メディア授業 (リアルタイム型)]	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)																																																						
10.	6/18	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について [メディア授業 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる																																																						
11.	6/25	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して [メディア授業 (リアルタイム型)]	吉野 康子 (東京家政大学特任准教授)																																																						
12.	7/2	「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]	藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)																																																						
13.	7/9	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義 [メディア授業 (オンデマンド型)]	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)																																																						

14.	7/16	第11～13回振り返り及びまとめ [メディア授業 (リアルタイム型)]	仲谷 ちはる
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>毎回の講義の冒頭に、Oh-o! Meiji の「出欠管理」機能を利用し、出欠確認を行う。 また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。 教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 本講座とあわせて、「日本社会・文化理解講座」(秋学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。</p>			
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。授業では、学生同士の積極的な議論や教員との質疑応答を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておく。授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。 また、明治大学 (国際教育センター) が企画する海外留学に関するイベント (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/event_schedule/event_schedule.html) や、留学のための各種相談 (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。</p>			
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>			
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>Benson, P., Barkhuizen, G. Bodycott, P., & Brown, J. (2013). <i>Second Language Identity in Narrative of Study Abroad</i>. Springer. 『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社) 『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p>			
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。</p>			
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 授業における貢献度: 30% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) リアクションペーパー: 30% ※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。</p> <p>(3) 期末レポート: 40% ※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。 ※対面式での試験は行わない。</p>			
<p>9 その他 (Other)</p> <p>他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。 また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。 この授業はメディア授業科目として開講される。外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法について別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。 対面での授業受講を希望する学生は、和泉キャンパス開講の科目を履修登録し、原則、全ての授業を和泉キャンパスの指定教室で受講すること。 オンラインでの授業受講を希望する学生は、メディア授業科目とされている科目を履修登録し、原則、全ての授業をオンラインで受講すること。受講場所は問わないので、視聴端末及び通信環境等は各自で準備すること。 なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。 また、ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、Zoom のカメラをオンにすることを求める可能性がある。</p>			

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者																																																								
日本社会・文化理解講座	1～4年	秋・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる																																																								
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>本講義は、全14回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を10回、担当教員による講義を4回行う。海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。</p> <p>ゲスト講師による講義では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めることを目的とする。</p> <p>担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士がお互いの考えを共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>本講座では、日本の文化を、言語、教育、宗教、政治、経済等の様々なテーマから扱い、留学や国際交流の場面で、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。</p>																																																													
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>9/24</td> <td>イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>10/1</td> <td>「常識」とはなんですか？ 日常生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！</td> <td>オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>10/8</td> <td>英語で説明するニッポン ～日本の未来を考えよう</td> <td>安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>10/15</td> <td>文化の相対化とは ～日本の社会と文化をより深く理解するために</td> <td>拜田 清 (和洋女子大学教授)</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>10/22</td> <td>第2～4回振り返り及び自文化理解</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>10/29</td> <td>個性的であれ！ 寅さん人生も悪くない</td> <td>川崎 つぶら (特定非営利活動法人日本川崎病研究センター職員)</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>11/12</td> <td>人生100年時代のお金事情 ～自律的な資産形成の重要性</td> <td>魚住 麻里 (大手信託銀行調査役)</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>11/19</td> <td>国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション</td> <td>三遊亭 竜楽 (落語家)</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>11/26</td> <td>日本のなかの言語多様性 ～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？ [メディア授業 (オンデマンド型)]</td> <td>橘 広司 (金城学院大学准教授)</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>12/3</td> <td>第6～9回振り返り及び日本における安全対策と危機管理</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>12/10</td> <td>異文化の中で生き抜く力とは</td> <td>中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>12/17</td> <td>太神楽とは何か ～おめでたいを世界へ</td> <td>鏡味 味千代 (太神楽師)</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>1/14</td> <td>社会とことば ～日本語教育の視点から</td> <td>二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>1/21</td> <td>第11～13回振り返り及びまとめ</td> <td>仲谷 ちはる</td> </tr> </tbody> </table>						1.	9/24	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義	仲谷 ちはる	2.	10/1	「常識」とはなんですか？ 日常生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！	オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)	3.	10/8	英語で説明するニッポン ～日本の未来を考えよう	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)	4.	10/15	文化の相対化とは ～日本の社会と文化をより深く理解するために	拜田 清 (和洋女子大学教授)	5.	10/22	第2～4回振り返り及び自文化理解	仲谷 ちはる	6.	10/29	個性的であれ！ 寅さん人生も悪くない	川崎 つぶら (特定非営利活動法人日本川崎病研究センター職員)	7.	11/12	人生100年時代のお金事情 ～自律的な資産形成の重要性	魚住 麻里 (大手信託銀行調査役)	8.	11/19	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション	三遊亭 竜楽 (落語家)	9.	11/26	日本のなかの言語多様性 ～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)	10.	12/3	第6～9回振り返り及び日本における安全対策と危機管理	仲谷 ちはる	11.	12/10	異文化の中で生き抜く力とは	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)	12.	12/17	太神楽とは何か ～おめでたいを世界へ	鏡味 味千代 (太神楽師)	13.	1/14	社会とことば ～日本語教育の視点から	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)	14.	1/21	第11～13回振り返り及びまとめ	仲谷 ちはる
1.	9/24	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義	仲谷 ちはる																																																										
2.	10/1	「常識」とはなんですか？ 日常生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！	オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)																																																										
3.	10/8	英語で説明するニッポン ～日本の未来を考えよう	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)																																																										
4.	10/15	文化の相対化とは ～日本の社会と文化をより深く理解するために	拜田 清 (和洋女子大学教授)																																																										
5.	10/22	第2～4回振り返り及び自文化理解	仲谷 ちはる																																																										
6.	10/29	個性的であれ！ 寅さん人生も悪くない	川崎 つぶら (特定非営利活動法人日本川崎病研究センター職員)																																																										
7.	11/12	人生100年時代のお金事情 ～自律的な資産形成の重要性	魚住 麻里 (大手信託銀行調査役)																																																										
8.	11/19	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション	三遊亭 竜楽 (落語家)																																																										
9.	11/26	日本のなかの言語多様性 ～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？ [メディア授業 (オンデマンド型)]	橘 広司 (金城学院大学准教授)																																																										
10.	12/3	第6～9回振り返り及び日本における安全対策と危機管理	仲谷 ちはる																																																										
11.	12/10	異文化の中で生き抜く力とは	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)																																																										
12.	12/17	太神楽とは何か ～おめでたいを世界へ	鏡味 味千代 (太神楽師)																																																										
13.	1/14	社会とことば ～日本語教育の視点から	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)																																																										
14.	1/21	第11～13回振り返り及びまとめ	仲谷 ちはる																																																										

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>毎回の講義の冒頭に、Oh-o! Meiji の「出欠管理」機能を利用し、出欠確認を行う。また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。本講座とあわせて、「留学のススメ」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。授業では、学生同士の積極的な議論を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておく。授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。</p> <p>また、明治大学 (国際教育センター) が企画する海外留学に関するイベント (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/event_schedule/event_schedule.html) や、留学のための各種相談 (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング)</p> <p>『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング)</p> <p>『グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」』松田悠介 著 (ダイヤモンド社)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p> <p>『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p> <p>『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 授業における貢献度：30%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) リアクションペーパー：30%</p> <p>※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。</p> <p>(3) 期末レポート：40%</p> <p>※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。</p> <p>※対面式での試験は行わない。</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。</p> <p>また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。この授業はメディア授業併設科目として開講される。外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法について別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。対面での授業受講を希望する学生は、和泉キャンパス開講の科目を履修登録し、和泉キャンパスの指定教室で授業に参加すること。</p> <p>オンラインでの授業受講を希望する学生は、メディア授業科目とされている科目を履修登録し、受講にあたっては受講場所は問わないので、視聴端末及び通信環境等は各自で準備すること。なお、メディア授業科目により修得する単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位数を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。</p> <p>また、ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、Zoom のカメラをオンにすることを求める可能性がある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
日本社会・文化理解講座〔M〕	1～4年	秋・火・4	2単位	メディア授業 科目	仲谷 ちはる
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>≪概要 (Course Summary)≫ 本講義は、全14回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を10回、担当教員による講義を4回行う。 海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。 ゲスト講師による講義では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めることを目的とする。 担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士がお互いの考えを共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>≪到達目標 (Course Objectives)≫ 本講座では、日本の文化を、言語、教育、宗教、政治、経済等の様々なテーマから扱い、留学や国際交流の場面で、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p>					
1.	9/24	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	仲谷 ちはる		
2.	10/1	「常識」とはなんでしょう？ 日常生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	オースティン オーガー (APTIM Japan 代表取締役)		
3.	10/8	英語で説明するニッポン ～日本の未来を考えよう〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
4.	10/15	文化の相対化とは ～日本の社会と文化をより深く理解するために〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	拜田 清 (和洋女子大学教授)		
5.	10/22	第2～4回振り返り及び自文化理解〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	仲谷 ちはる		
6.	10/29	個性的であれ！寅さん人生も悪くない〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	川崎 つぶら (特定非営利活動法人日本川崎病研究センター職員)		
7.	11/12	人生100年時代のお金事情 ～自律的な資産形成の重要性〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	魚住 麻里 (大手信託銀行調査役)		
8.	11/19	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	三遊亭 竜楽 (落語家)		
9.	11/26	日本のなかの言語多様性 ～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？〔メディア授業 (オンデマンド型)〕	橋 広司 (金城学院大学准教授)		
10.	12/3	第6～9回振り返り及び日本における安全対策と危機管理〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	仲谷 ちはる		
11.	12/10	異文化の中で生き抜く力とは〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)		
12.	12/17	太神楽とは何か ～おめでたいを世界へ〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	鏡味 味千代 (太神楽師)		
13.	1/14	社会とことば～日本語教育の視点から〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)		
14.	1/21	第11～13回振り返り及びまとめ〔メディア授業 (リアルタイム型)〕	仲谷 ちはる		

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>毎回の講義の冒頭に、Oh-o! Meiji の「出欠管理」機能を利用し、出欠確認を行う。 また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。 教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 本講座とあわせて、「留学のススメ」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。授業では、学生同士の積極的な議論を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておく。 授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。 また、明治大学 (国際教育センター) が企画する海外留学に関するイベント (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/event_schedule/event_schedule.html) や、留学のための各種相談 (https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング) 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBCパブリッシング) 『グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」』松田悠介 著 (ダイヤモンド社) 『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。 最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 授業における貢献度：30% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) リアクションペーパー：30% ※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。</p> <p>(3) 期末レポート：40% ※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。 ※対面式での試験は行わない。</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。 また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。 この授業はメディア授業科目として開講される。外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法について別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。 対面での授業受講を希望する学生は、和泉キャンパス開講の科目を履修登録し、和泉キャンパスの指定教室で授業に参加すること。 オンラインでの授業受講を希望する学生は、メディア授業科目とされている科目を履修登録し、受講にあたっては受講場所は問わないので、視聴端末及び通信環境等は各自で準備すること。なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。 また、ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、Zoom のカメラをオンにすることを求める可能性がある。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座〔M〕	1～4年	春・木・5	2単位	メディア授業 科目	タンシリトンチャイ、ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、そうした日本とアジアの架け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標とするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法を紹介するとともに、関連するアセアン諸国の文化や社会も紹介する。また本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。</p> <p>本講座の目標は、タイ語会話の基礎知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、タイ及びタイ語の概要〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 2. あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 3. タイ人の自己紹介〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 4. タイ人の方向感覚〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 5. タイ人と日本人の意見・感情の表現〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 6. まとめ、異文化理解の観点からタイやアセアンを見るセクション〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 7. タイの若者のライフスタイル〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 8. タイおよびアセアン諸国の食文化〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 9. タイ人のコミュニケーション方法〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 10. タイ人の時間の表現〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 11. まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 12. タイ人の経験・願望の表現〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 13. タイ文字〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 14. a: 総まとめ、b: プレゼンテーション〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業 (リアルタイム配信型のオンライン授業) である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。</p> <p>リアルタイム配信型のオンライン授業として実施するため、キャンパス内の自習室および自宅から受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末は各自で準備すること。</p> <p>また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。</p> <p>Oh-o! Meiji クラスウェブを通じて授業資料、補足資料、課題などを知らせ、教員への質問・相談窓口として専用メールアドレスを履修者に通知する。</p>					

<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。</p> <p>また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。</p>												
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない (講師によるプリントや資料を配布予定)。</p>												
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店) 『東南アジアを知るための50章 エリア・スタディーズ』今井昭夫 編集代表 (明石書店) 『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂) 『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)</p>												
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>提出課題やレポートに対して Oh-o! Meiji でコメント・フィードバックをするとともに、講義の際にも、質疑応答および解説のコーナーを設け、フィードバックしたことについて学生参加型のインタラクティブなディスカッションや意見交換を行い理解度を確認する。授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで情報提供を行うこともある。</p>												
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <table> <tr> <td>・平常点</td> <td>20%</td> <td>(クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%)</td> </tr> <tr> <td>・課題</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・中間レポート</td> <td>25%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・最終レポート</td> <td>35%</td> <td></td> </tr> </table> <p>※対面形式での試験は行わない。</p>	・平常点	20%	(クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%)	・課題	20%		・中間レポート	25%		・最終レポート	35%	
・平常点	20%	(クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%)										
・課題	20%											
・中間レポート	25%											
・最終レポート	35%											
<p>9 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。</p> <p>この授業はメディア授業科目として開講される。授業は全て講義をリアルタイムで配信する (タイで実施している授業を配信するオンライン科目である)。</p> <p>メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。</p> <p>なお、毎回の講義の際に、学生参加型のインタラクティブなディスカッションや質疑応答のコーナーを設け出席確認及び理解度確認を行う。また、授業中は Zoom カメラオンでのディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。提出課題を通じてコメントや意見を交換することもある。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。</p>												

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座〔M〕	1～4年	秋・木・5	2単位	メディア授業 科目	タンシリトンチャイ、ウィライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、そうした日本とアジアの架け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標とするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法を紹介するとともに、関連するアセアン諸国の文化や社会も紹介する。また本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。</p> <p>本講座の目標は、タイ語会話の基礎知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、タイ及びタイ語の概要〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 2. あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 3. タイ人の自己紹介〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 4. タイ人の方向感覚〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 5. タイ人と日本人の意見・感情の表現〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 6. まとめ、異文化理解の観点からタイやアセアンを見るセクション〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 7. タイの若者のライフスタイル〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 8. タイおよびアセアン諸国の食文化〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 9. タイ人のコミュニケーション方法〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 10. タイ人の時間の表現〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 11. まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 12. タイ人の経験・願望の表現〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 13. タイ文字〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 14. a: 総まとめ、b: プレゼンテーション〔メディア授業 (リアルタイム型)〕 					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業 (リアルタイム配信型のオンライン授業) である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。</p> <p>リアルタイム配信型のオンライン授業として実施するため、キャンパス内の自習室および自宅から受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末は各自で準備すること。</p> <p>また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。</p> <p>Oh-o! Meiji クラスウェブを通じて授業資料、補足資料、課題などを知らせ、教員への質問・相談窓口として専用メールアドレスを履修者に通知する。</p>					

<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。</p> <p>また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。</p>												
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない (講師によるプリントや資料を配布予定)。</p>												
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店) 『東南アジアを知るための50章 エリア・スタディーズ』今井昭夫 編集代表 (明石書店) 『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂) 『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)</p>												
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>提出課題やレポートに対して Oh-o! Meiji でコメント・フィードバックをするとともに、講義の際にも、質疑応答および解説のコーナーを設け、フィードバックしたことについて学生参加型のインタラクティブなディスカッションや意見交換を行い理解度を確認する。授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで情報提供を行うこともある。</p>												
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <table> <tr> <td>・平常点</td> <td>20%</td> <td>(クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%)</td> </tr> <tr> <td>・課題</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・中間レポート</td> <td>25%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・最終レポート</td> <td>35%</td> <td></td> </tr> </table> <p>※対面形式での試験は行わない。</p>	・平常点	20%	(クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%)	・課題	20%		・中間レポート	25%		・最終レポート	35%	
・平常点	20%	(クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%)										
・課題	20%											
・中間レポート	25%											
・最終レポート	35%											
<p>9 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。</p> <p>この授業はメディア授業科目として開講される。授業は全て講義をリアルタイムで配信する (タイで実施している授業を配信するオンライン科目である)。</p> <p>メディア授業科目により修得する単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれる。</p> <p>なお、毎回の講義の際に、学生参加型のインタラクティブなディスカッションや質疑応答のコーナーを設け出席確認及び理解度確認を行う。また、授業中は Zoom カメラオンでのディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。提出課題を通じてコメントや意見を交換することもある。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。</p>												

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
グローバル・イシュー総論 [M]	1～4年	春・木・3	2単位	メディア授業 科目	源 由理子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>本授業では、現代社会が直面する地球規模の課題 (グローバル・イシュー) について、一見私たちにとって日常生活からかけ離れているように見える課題が、実は生活と深く関わっていることを多角的な視点からとらえていく。そして、「国際協力」の視点から、それら課題解決に向けて多様な主体 (政府、政府機関、国際機関、民間企業、NPO/NGO 等) がどのように連携して取り組んでいるのか、その現状と課題についてそれぞれの分野を専門としている本学教員・外部講師が関連した事例とともに検討していく。</p> <p>グローバルな視点から社会の課題を考えることで、私たち自身のローカルな課題の解決に向けての気づきをもたらすとともに、グローバルな人材としてこれから社会で活躍するためのグローバル・イシューの基礎知識の修得を到達目標とする。</p> <p>なお本授業は、本学教員4名 (専門職大学院ガバナンス研究科所属) と外部講師2名 (国際開発コンサルタント、JICA) により構成する。外部講師は明治大学を卒業し国際協力の第一線で活躍している方を招聘し、現場での実践をとおした知見について学ぶ機会を提供していただく。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>以下の授業はすべてメディア授業 (リアルタイム配信型) で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 源由理子) グローバル・イシュー (地球規模の課題) とは何か。背景にある複雑な要因と社会の多様な主体の関わりについて概観する。 2. 「貧困問題」とは何か [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: 源) 国内外の貧富の格差拡大について、グローバル経済がもたらす光と影に焦点をあてながらその現状について考察し、「貧困」を再定義する。 3. 国際協力・開発援助の仕組み [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: 源) 国際協力の担い手は複数ある。それぞれの実施形態の特徴と連携について概観する。 4. 日本の二国間開発協力 [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: JICA 富田洋行) 基本的な JICA 事業概要と今後の方向性の模索について概観する。併せて途上国での JICA 職員の業務経験を紹介する。 5. 青年海外協力隊の取組み ―南米パラグアイでの農村コミュニティ支援― [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: 国際開発コンサルタント 稲葉健一) 明治大学政治経済学部卒業後、社会人経験を経て青年海外協力隊参加に至った動機、活動内容、帰国後の仕事を紹介する。 6. 人間の安全保障 (1) [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 戸田隆夫) 日本の対外政策の中心理念である人間の安全保障という概念生成と主流化の過程から、理念と社会変容の関係性について考える。 7. 人間の安全保障 (2) [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: 戸田) 人間の安全保障理念の生成以来、四半世紀を経た今日、改めて同理念の今日的意義を問う。 8. 国際援助機関における環境社会配慮 [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 辻昌美) 世界銀行やアジア開発銀行などの国際援助機関における環境社会配慮分野に関し、政策立案・実施過程と、それらの過程における様々な課題・対処の実例について俯瞰するとともに、人材育成の実情について明らかにする。 9. NGO の取組み (1) (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 長畑誠) いわゆる「途上国」の草の根の現場で活躍する NGO の活動を概観し、その課題を考える。 10. NGO の取組 (2) [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: ガバナンス研究科 長畑) 気候変動や平和と軍縮、人権等、国境を超えた課題に取り組む NGO の活動を概観し、その課題を考える。 11. グローバルヘルスにおける日本のリーダーシップ [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: 戸田隆夫) グローバルヘルスにおいて日本が果たしてきた役割を考察しグローバルリーダーシップのあり方を考える。 12. 新たな時代の国際協力のあり方 (リアルタイム型)] (担当: 戸田) これまで学んだことを踏まえ、地球規模の社会課題の解決に向けて、今後の国際協力のあり方を論じる。 					

<p>13. 市民社会と国際協力 (リアルタイム型)] (担当: 長畑) グローバルな課題は、日本社会とも繋がっている。海外と日本とを繋ぐ NGO の活動を例に市民として何をすべきかを考える。</p> <p>14. まとめ-あらためてグローバルイシューとは [メディア授業 (リアルタイム型)] (担当: 源)</p>
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業はメディア授業科目として開講され、授業はすべてリアルタイム配信型で行う。 ・メディア授業科目により修得する単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれる。 ・学生は Zoom で自宅等から視聴することを可とする。 ・出席の確認は、スクリーン上で行うため、名前を漢字で標記すること。 ・可能な限り双方向の授業を行うため、ディスカッションの際には Zoom のカメラをオンにすること。 <p>なお、質問や確認事項等については、担当教員の源 (minamoto@meiji.ac.jp) までメールにてご連絡ください。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>(予習) 事前配布の資料がある場合は、資料を読み込んでくること。 (復習) 各回の復習を踏まえ、授業参加レポート (リアクションペーパー) を提出すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特定の教科書は使用しない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>各回に該当する参考書は以下のとおり。授業内で必ずしも使用するものではないが、予習、復習で活用すること。</p> <p>(1～3)</p> <p>『貧困問題とは何であるか～開発学への新しい道』下村恭民・小林誉明編著 (勁草書房) 2009 年 『国際協力～その新しい潮流』下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由紀子 (有斐閣選書) 2017 年 『不平等の再検討～潜在能力と自由』アマルティア・セン (岩波書店) 1999 年</p> <p>(6～7)</p> <p>『人間の安全保障』アマルティア・セン (集英社新書) 2006 年 『安全保障の今日的課題』人間の安全保障委員会報告書 (朝日新聞社) 2003 年 『Japan's Leadership for Human Security with/after COVID-19』, Toda Takao, Asia Pacific Review · Vol.27 · No.2 · November2020 (Taylor & Francis (Routledge), pp.26-45. 『UHC 実現に向けての日本・JICA の取り組み』戸田隆夫 https://japan-who.or.jp/wp-content/themes/rewho/img/PDF/library/061/book6704.pdf</p> <p>(11～12)</p> <p>『グローバル時代の「開発」を考える』西あい・湯本浩之編著 (明石書店) 2017 年 『国際協力 NGO のフロンティア』金敬黙・福武慎太郎・多田透・山田裕史編著 (明石書店) 2007 年 『Why wisdom is the most important value in the Great Reset』戸田隆夫 (世界経済フォーラム (WEF) スイス) https://www.weforum.org/agenda/authors/takao-toda 『アフターコロナー見えてきた7つのメガトレンド』島津翔ほか著 (日経 BP) 2020 年 『開発を問い直す 転換する世界と日本の国際協力』西川潤ほか編著 (日本評論社) 2011 年</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>リアクションペーパーに対し、授業の中で全体講評を行いフィードバックする。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>毎回の授業参加レポート (1 枚以内のリアクションペーパー) の質的水準 40% 期末レポートの質的水準 60% ※対面形式での試験は行わない。</p>
<p>9 その他 (Other)</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
グローバル・イシュー各論〔M〕	1～4年	春・木・4	2単位	メディア授業 科目	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>私たちを取巻くグローバルな社会は、パンデミック、気候変動、国際紛争、資源の不均衡、貧困、人権の侵害など、多岐にわたる課題に直面しています。そして、これらの問題は国境を越えて影響を及ぼしており、持続可能な社会を築くためには、グローバルイシューについて理解を深めること、そして単一の国や地域だけでなく、異なる文化や価値観を持つ多様な人々と協働して解決策を生み出すことが求められています。</p> <p>こうした背景から、この講義ではグローバルな課題の解決を目指して行われる様々な事例(ケース)を題材に、グローバルな課題について理解を深めることを目的としています。</p> <p>さらに、このような課題の解決に取り組んでいる様々な担い手 (JICA や NPO のスタッフや社会起業家) が、グローバルな社会をどう捉えているのか、また、どのように彼ら自身が必要なスキルを磨いてきたのかを理解します。そして、これらの理解を通じて、受講者が自身にとって必要なアクション等について示唆を得ます。</p> <p>なお、本講義では、受講者が多角的に物事を理解し、様々な背景の人々と協働するための能力の形成を目指して、講義の中で Zoom 機能を活用してカメラオンで小グループ (4 名程度) での対話を行います。こうした対話を円滑に進めることができるよう、講義の前半に対話のやり方について紹介予定です。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身とグローバルな課題との接点を見つける ・対話を通じて新たな視点を得つつ、協働する能力を身につける ・グローバルなキャリアのイメージを把握し、自身に必要なアクションを言語化する 					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション〔メディア授業 (リアルタイム型)] (三牧純子) 2. 新たな価値を生み出すコミュニケーション (対話の手法)〔メディア授業 (リアルタイム型)] (JICA 中東欧州部 森川結子課長) 3. 【実践から学ぶ】ストリートチルドレンの問題に取り組む〔メディア授業 (リアルタイム型)] (JICA 青年海外協力隊事務局 黒田篤槻職員) 4. 【地域から捉える】中東・パレスチナの人々〔メディア授業 (リアルタイム型)] (JICA 評価部 阿部俊哉部長 (前 JICA パレスチナ事務所長)) 5. 【実践から捉える】鉄道がつくる未来〔メディア授業 (リアルタイム型)] (JICA 企画部 小泉幸弘参事役) 6. 【地域から捉える】途上国の支援の現場から (アフリカ・ルワンダ)〔メディア授業 (リアルタイム型)] (JICA ルワンダ事務所 浅沼琢朗所員) 7. 【地域から学ぶ】途上国の支援の現場から (大洋州・サモア)〔メディア授業 (リアルタイム型)] (JICA サモア支所 朝熊由美子支所長) 8. 【実践から学ぶ】母子の命を守る〔メディア授業 (リアルタイム型)] (JICA 人間開発部 萩原明子国際協力専門員) 9. 前半のまとめ〔メディア授業 (リアルタイム型)] (三牧純子) 10. 【新たな潮流を知る】最高の教育を世界の果てまで～テクノロジーで教育の格差に挑む〔メディア授業 (リアルタイム型)] (認定 NPO 法人 e-Education 坂井健副代表) 11. 【新たな潮流を知る】ニッポン型野球でアフリカと日本の未来を創る〔メディア授業 (リアルタイム型)] (一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構 友成晋也代表理事) 12. 【新たな潮流を知る】唐揚げでアフリカ小規模農家 5 億人を救う〔メディア授業 (リアルタイム型)] (YOOFIN 創業者 関根賢人氏) 13. まとめ①〔メディア授業 (リアルタイム型)] (三牧純子) 14. まとめ②〔メディア授業 (リアルタイム型)] (三牧純子) <p>※外部講師の事例の紹介をもとに、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使って、参加者間の対話を 4 名程度の小グループで複数回行います。対話の時間中は全参加者が「カメラオン」での参加をお願いします。</p>					

<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 単位： この授業はメディア授業科目として開講される科目です。 授業は全て講義動画をリアルタイムで配信します。メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれます。</p> <p>(2) 出席確認方法： 出席は点呼および授業参加レポートで確認します。また、授業中に呼びかけに応じない場合は欠席扱いとすることがあります。</p> <p>(3) 受講環境： ①環境：受講にあたっては、受講場所は問いませんが、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。 ②カメラオン：小グループでの対話の時間は、カメラオンでの参加を求めますので、留意ください。 ③Zoom の URL：この授業はリアルタイム配信型であり、受講者はシラバス時間通りに Zoom を使って授業に参加してください。Zoom による授業アクセスのためのミーティング ID 及びパスワード、または URL はクラスウェブにある「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。</p> <p>(4) 資料アップロード： 事前に授業に使う資料がある場合は事前にアップロードします。受講者は各自 Oh-o! Meiji システムからダウンロードして予習してください。授業内容がさらに分かりやすくなります。</p> <p>(5) 授業開始以降に変更が生じる場合： 「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。</p> <p>(6) 問合せ： 授業に関する質問や意見、相談等がある場合は担当者にメールで相談してください。メールアドレスについては、受講者確認後に授業内でお伝えします。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>講義内で参考資料を提示し、事前確認を課す場合があります。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めません。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『私たちが国際協力をする理由 人道と国益の向こう側』紀谷昌彦 (日本評論社) ・『第三世界の農村開発』ロバート・チェンバース (明石書店) ・『利他とは何か』伊藤亜紗編 (集英社)
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>リアクションペーパーについて講義の中で全体講評を行います。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義への参画度 20% ・毎回の授業参加レポート (一枚以内のリアクションペーパー) の質的水準 35% ・中間レポート 15% ・期末レポート 30% <p>※対面での試験はありません。</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>「課題」は開発途上国だけに存在するものではありません。日本は課題先進国と呼ばれ、少子高齢化を背景に日本も様々な課題を抱えています。社会のサステナビリティを実現するために、日本の社会課題にグローバルな観点からイノベティブに取り組む様々なアクター (自治体、民間企業そして NPO) の取り組みについて、以下の講義で取り上げる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講時期：秋学期の木曜 (4 限) ・講義タイトル：留学生・国際連携科目「ソリューション・アプローチ (国際システム) 〔M〕」

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
ソリューション・アプローチ (国際システム) [M]	1~4年	秋・木・4	2単位	メディア授業 科目	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>≪概要 (Course Summary) ≫</p> <p>2015年に国連で持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs) が採択されて以降、世界各国で持続可能な社会の構築の必要性について認識が広がっています。</p> <p>しかしながら、私たちの社会は、当事者だけでは解決できない様々な課題に直面しています。</p> <p>それでは、持続可能な社会を構築するために、社会課題に対してどのような発想で解決策を見出してゆけばいいのでしょうか。</p> <p>本講義では、日本国内の社会課題の中で特に環境問題 (廃棄物、耕作放棄、生態系保全) や人と人との関係性に関わる課題 (望まない孤立、貧困、多文化共生) に対する様々な取り組み事例に着目します。そして、様々なアクター (個人、民間企業、自治体、NPO等) との対話を通じて、社会課題とわたしたちとの接点、課題解決のためのクリエイティブな発想、グローバルな視点の地域社会 (ローカル) への還元について考え、受講者自身が貢献できるアクションを見出してゆきます。</p> <p>なお、今後、VUCA (ブーカ) と呼ばれる予測不能で変転する時代となると予測されており、背景が異なる多様な人材とアイデアを重ね、解決策を見出してゆくことが求められています。このため受講者は講義中にズーム機能を用いてブレイクルームにおいて、少人数 (4人単位) でカメラオンでの対話を行う予定です。</p> <p>≪到達目標 (Course Objectives) ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題と自身との接点を見出す ・課題解決に必要な視点や発想を理解する ・持続可能な社会の構築のために自身が貢献できるアクション (社会還元) を言語化する 					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>第1回 イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム型)] (三牧純子)</p> <p>第2回 社会課題とクリエイティブリーダーシップ (デンマークの事例から) [メディア授業 (リアルタイム型)] (株式会社レア共同代表 大本綾氏)</p> <p>第3回 都市部と地方の関係性から考える課題とは (広島県大崎下島の事例) [メディア授業 (リアルタイム型)] (一般社団法人まめな Founder 更科安春氏)</p> <p><環境と向き合う></p> <p>第4回 森林を軸にした持続可能なまちづくり (北海道下川町の事例) [メディア授業 (リアルタイム型)] (北海道下川町政策推進課 SDGs 推進戦略室 室長 亀田慎司氏)</p> <p>第5回 食品ロス実質ゼロを目指したホテル経営 [メディア授業 (リアルタイム型)] (株式会社ニュー・オータニ マネージメントサービス課 課長 片岡慎一郎氏)</p> <p>第6回 ごみゼロ ゼロウェイストのまちづくり (徳島県上勝町の事例) [メディア授業 (リアルタイム型)] (合同会社バンゲア 最高経営責任者 野々山聡氏)</p> <p>第7回 生態系保全の観点から耕作放棄地に取り組む (神奈川県秦野市の事例) [メディア授業 (リアルタイム型)] (株式会社トアポイント 代表取締役 白井寛人氏)</p> <p>第8回 エコビレッジを通じた社会づくり [メディア授業 (リアルタイム型)] (Dana Village・チャルジョウ西会津農場 代表 小川美農里氏)</p> <p><人と人との関係性をより豊かなものに></p> <p>第9回 共感から始めるイノベーション [メディア授業 (リアルタイム型)] (認定特定非営利活動法人日本ファンディング協会代表理事 鶴尾雅隆氏)</p> <p>第10回 【孤独】望まない孤独のない社会を創る [メディア授業 (リアルタイム型)] (特定非営利活動法人 あなたのいばしょ 理事長 大空幸星氏)</p> <p>第11回 【貧困問題】子どもが将来に希望をもてる社会を目指して [メディア授業 (リアルタイム型)] (一般社団法人チョイふる 代表理事 栗野泰成氏)</p> <p>第12回 【多文化共生】一人ひとりとのつながりを活かして (愛知県の事例) [メディア授業 (リアルタイム型)] (多文化ソーシャルワーカー、愛知県立大学生涯発達研究所協力研究員 神田すみれ氏)</p> <p>第13回 まとめ① [メディア授業 (リアルタイム型)] (三牧純子)</p>					

<p>第14回 まとめ② [メディア授業 (リアルタイム型)] (三牧純子)</p> <p>※外部講師の事例紹介をもとに、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使って、参加者間の対話を4名程度の小グループで複数回行います。対話の時間中は全参加者がカメラオンでの参加をお願いします。</p>
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 単位： この授業はメディア授業科目として開講される科目です。 授業は全て講義動画をリアルタイムで配信します。メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとされており、本科目は60単位の制限に含まれます。</p> <p>(2) 出席確認方法： 出席は点呼および授業参加レポートで確認します。また、授業中に呼びかけに応じない場合は欠席扱いとすることがあります。</p> <p>(3) 受講環境： ①環境：受講にあたっては、受講場所は問いませんが、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。 ②カメラオン：小グループでの対話の時間は、カメラオンでの参加を求めますので、留意ください。 ③ZoomのURL：この授業はリアルタイム配信型であり、受講者はシラバス時間通りにZoomを使って授業に参加してください。Zoomによる授業アクセスのためのミーティングID及びパスワード、またはURLはクラスウェブにある「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。</p> <p>(4) 資料アップロード： 事前に授業に使う資料がある場合は事前にアップロードします。受講者は各自 Oh-o! Meiji システムからダウンロードして予習してください。授業内容がさらに分かりやすくなります。</p> <p>(5) 授業開始以降に変更が生じる場合： 「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。</p> <p>(6) 問合せ： 授業に関する質問や意見、相談等がある場合は担当者にメールで相談してください。メールアドレスについては、受講者確認後に授業内でお伝えします。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>講義内で参考資料を提示し、事前確認を課す場合があります。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めません。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『SDGs 超入門』バウンド (株式会社 技術評論社)</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>リアクションペーパーについて講義の中で全体講評を行います。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義への参画度 20% ・毎回の授業参加レポート (一枚以内のリアクションペーパー) の質的水準 35% ・中間レポート 15% ・期末レポート 30% <p>※対面での試験はありません。</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>本講義に先立ち、持続可能な開発を目指す国際協力の取り組みに関する以下の講義の受講を強く勧めます。こちらの講義では、対話における具体的なコミュニケーションの手法についても取り上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講時期：春学期の木曜 (4限) ・講義タイトル：留学生・国際連携科目「グローバル・イシュー各論 [M]」

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修	1～4年	夏季・春季 (集中)	2単位	その他	国際連携機構 特任教員
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>明治大学国際教育センターが実施ならびに選定する海外大学等での専門科目や文化講座、語学研修またはキャリア研修等の実習プログラムに参加し、派遣先の社会状況における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休暇を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における文化講座、語学研修または海外キャリア実習等を行う。プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、以下のサイトを確認すること。</p> <p>グループ渡航型：https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html</p> <p>個人渡航型：https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>※本学ホームページ：メニュー>「国際連携・留学」>「海外留学を希望する方へ」>「海外留学プログラム」</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>対象プログラムには「グループ渡航型」と「個人渡航型」の2種類がある。</p> <p>(1) 「グループ渡航型」とは、明治大学の学生を対象に参加する「グループ」を募集するプログラム。留学先への往路・復路ともに定められた期日に出発・帰国するため、集団行動が求められる。初めての海外留学に挑戦する学生には安心でおすすめ。</p> <p>(2) 「個人渡航型」とは、明治大学の学生に限らず参加する「個人」を募集するプログラム。留学先への往路・復路は参加者の希望により、長期休暇の範囲内で各自が手配できる。自由度はあるが主体性・計画性を問われるため、海外留学や海外旅行に慣れている学生向け。</p> <p>(3) プログラムの所定の事前学習を必ず受講すること。</p> <p>(4) 単位認定（履修）に関する詳細は、参加者対象のオリエンテーションにて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 ・夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(5) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（上記サイト参照）。</p>					
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>プログラムの所定の事前学習・事後学習で参加決定者へ指示する。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>					
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>					
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版) 『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p>					

<p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p> <p>その他の参考図書等については、以下のサイトを確認すること。</p> <p>https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/eng_programmes/referencebooks.html</p> <p>※本学ホームページ：メニュー>「国際連携・留学」>「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」>「学習に役立つリンク集・参考図書」</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>派遣先からの提出書類、留学報告書などに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習 (20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※出発前に指定のオンデマンド講義を視聴し、指定期間内に課題を提出する。 <p>(2) 派遣先からの評価 (70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※正当な事情により時間数を満たせずに修了証が提出できない場合は、その他に積極的に研修に参加した証拠の提出を求める。 <p>(3) 事後学習 (10%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※帰国後、指定期間内に課題を提出する。
<p>9 その他 (Other)</p> <p>明治大学国際教育センター主催の海外研修プログラム（対象プログラム）は以下の通り。</p> <p>【テーマ特化型研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> ベトナム国家大学ホーチミン校（ベトナム）、アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）、テンプル大学（アメリカ）、ペンシルベニア大学（アメリカ）、ケンブリッジ大学コーパスクリスティ校（イギリス） ●個人渡航型 <ul style="list-style-type: none"> オックスフォード大学 St Hilda's College（イギリス）、オックスフォード Union（イギリス）、サンフランシスコ州立大学（アメリカ） <p>【海外語学研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> ワシントン大学（アメリカ）、アデレード大学（オーストラリア）、ユーコン大学（カナダ）、プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、ビクトリア大学（カナダ）、オークランド大学（ニュージーランド）、エンデラン大学（3・6週間、オンライン）（フィリピン）、ペンシルベニア大学 ELP（日本・和泉キャンパス）、シェフィールド大学（イギリス）、ヨーク大学（カナダ）、マクマスター大学（カナダ）、ウィーン大学（オーストリア）、リヨンカトリック大学（フランス）、バルセロナ自治大学（スペイン）、北京大学（中国） ●個人渡航型 <ul style="list-style-type: none"> チチェスターカレッジ（イギリス）、LSI ポーツマス英語研修（イギリス）、Kings オックスフォード英語研修（イギリス）、トロント大学（カナダ）、CCEL クライストチャーチ英語研修（ニュージーランド） EF (Education First) (世界各国)、サイモンフレーザー大学(カナダ)、フィッシャーカレッジ大学(アメリカ)、マウント・セント・ビンセントカレッジ（アメリカ） <p>【海外実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> タイ・ボランティア（タイ）、サンフランシスコで学ぶソーシャルイノベーションプログラム（アメリカ）、海外キャリア研修（ベトナム、オーストラリア、タイ）、UTM Study Tour（マレーシア）、Study Tour（ベトナム）、タイ言語&文化プログラム（タイ）

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型留学	1～4年	夏季・春季 (集中)	2単位	その他	国際教育センター長
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修または海外実習等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約4週間（実学習時間が1350分以上）の文化講座、語学研修または海外実習等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと（夏季プログラムは7月中旬、春季プログラムは1月中旬を予定）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行う。 入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なる（推奨プログラムホームページ参照）。 過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行わない。 夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』 吉田ちか 著 (角川マガジズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』 植田一三・上田敏子 著 (語研)</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』 広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>留学先からの提出書類、留学報告書などをに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定 (N) となる。</p>
<p>9 その他 (Other)</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修	1～4年	夏季・春季 (集中)	2単位	その他	国際連携機構 特任教員
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>明治大学国際教育センターが実施ならびに選定する海外大学等での専門科目や文化講座、語学研修またはキャリア研修等の実習プログラムに参加し、派遣先の社会状況における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休暇を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における文化講座、語学研修または海外キャリア実習等を行う。プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、以下のサイトを確認すること。</p> <p>グループ渡航型：https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html</p> <p>個人渡航型：https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>※本学ホームページ：メニュー>「国際連携・留学」>「海外留学を希望する方へ」>「海外留学プログラム」</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>対象プログラムには「グループ渡航型」と「個人渡航型」の2種類がある。</p> <p>(1) 「グループ渡航型」とは、明治大学の学生を対象に参加する「グループ」を募集するプログラム。留学先への往路・復路ともに定められた期日に出発・帰国するため、集団行動が求められる。初めての海外留学に挑戦する学生には安心でおすすめ。</p> <p>(2) 「個人渡航型」とは、明治大学の学生に限らず参加する「個人」を募集するプログラム。留学先への往路・復路は参加者の希望により、長期休暇の範囲内で各自が手配できる。自由度はあるが主体性・計画性を問われるため、海外留学や海外旅行に慣れている学生向け。</p> <p>(3) プログラムの所定の事前学習を必ず受講すること。</p> <p>(4) 単位認定（履修）に関する詳細は、参加者対象のオリエンテーションにて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 ・夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(5) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（上記サイト参照）。</p>					
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>プログラムの所定の事前学習・事後学習で参加決定者へ指示する。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>					
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>					
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版) 『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p>					

<p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p> <p>その他の参考図書等については、以下のサイトを確認すること。</p> <p>https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/eng_programmes/referencebooks.html</p> <p>※本学ホームページ：メニュー>「国際連携・留学」>「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」>「学習に役立つリンク集・参考図書」</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>派遣先からの提出書類、留学報告書などに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習 (20%)</p> <p>※出発前に指定のオンデマンド講義を視聴し、指定期間内に課題を提出する。</p> <p>(2) 派遣先からの評価 (70%)</p> <p>※正当な事情により時間数を満たせずに修了証が提出できない場合は、その他に積極的に研修に参加した証拠の提出を求める。</p> <p>(3) 事後学習 (10%)</p> <p>※帰国後、指定期間内に課題を提出する。</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>明治大学国際教育センター主催の海外研修プログラム（対象プログラム）は以下の通り。</p> <p>【テーマ特化型研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> ベトナム国家大学ホーチミン校（ベトナム）、アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）、テンプル大学（アメリカ）、ペンシルベニア大学（アメリカ）、ケンブリッジ大学コーパスクリスティ校（イギリス） ●個人渡航型 <ul style="list-style-type: none"> オックスフォード大学 St Hilda's College（イギリス）、オックスフォード Union（イギリス）、サンフランシスコ州立大学（アメリカ） <p>【海外語学研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> ワシントン大学（アメリカ）、アデレード大学（オーストラリア）、ユーコン大学（カナダ）、プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、ビクトリア大学（カナダ）、オークランド大学（ニュージーランド）、エンデラン大学（3・6週間、オンライン）（フィリピン）、ペンシルベニア大学 ELP（日本・和泉キャンパス）、シェフィールド大学（イギリス）、ヨーク大学（カナダ）、マクマスター大学（カナダ）、ウィーン大学（オーストリア）、リヨンカトリック大学（フランス）、バルセロナ自治大学（スペイン）、北京大学（中国） ●個人渡航型 <ul style="list-style-type: none"> チチェスターカレッジ（イギリス）、LSI ポーツマス英語研修（イギリス）、Kings オックスフォード英語研修（イギリス）、トロント大学（カナダ）、CCEL クライストチャーチ英語研修（ニュージーランド） EF (Education First) (世界各国)、サイモンフレーザー大学(カナダ)、フィッシャーカレッジ大学(アメリカ)、マウント・セント・ビンセントカレッジ（アメリカ） <p>【海外実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> タイ・ボランティア（タイ）、サンフランシスコで学ぶソーシャルイノベーションプログラム（アメリカ）、海外キャリア研修（ベトナム、オーストラリア、タイ）、UTM Study Tour（マレーシア）、Study Tour（ベトナム）、タイ言語&文化プログラム（タイ）

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型短期留学（語学）	1～4年	夏季・春季 （集中）	1単位	その他	国際教育センター長
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>＜概要（Course Summary）＞</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修または海外実習等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>＜到達目標（Course Objectives）＞</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約2週間以上（実学習時間が1350分以上）の文化講座、語学研修または海外実習等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと（夏季プログラムは7月中旬、春季プログラムは1月中旬を予定）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行う。 入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なる（推奨プログラムホームページ参照）。 過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行わない。 夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で!日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法（Feedback）</p> <p>留学先からの提出書類、留学報告書などをに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>9 その他（Other）</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型留学（語学）	1～4年	夏季・春季 （集中）	2単位	その他	国際教育センター長
<p>1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）</p> <p>◀概要（Course Summary）▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修または海外実習等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標（Course Objectives）▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容（Course Contents）</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約4週間（実学習時間が2700分以上）の文化講座、語学研修または海外実習等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと（夏季プログラムは7月中旬、春季プログラムは1月中旬を予定）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行う。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なる（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行わない。 ・夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書（Textbook）</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書（Reference）</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で!日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法（Feedback）</p> <p>留学先からの提出書類、留学報告書などをに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法（Grading and Evaluation）</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>9 その他（Other）</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期国際協力フィールドワーク (国内)	1～4年	春・木・3	1単位	和泉	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>本講義は、グローバル人材育成プログラム科目の一つであり、国際協力の取り組みの国内での現場を学期中に訪問することにより、将来、グローバルな舞台で活躍するために必要な知識や資質について学ぶことを目的としている。</p> <p>講義はフィールドワーク前の事前学習、国際協力の現場への短期フィールドワーク（訪問先の都合にあわせて半日を2回、学期中に実施予定）、現場で得た知識や気付きのまとめと共有の三部によって実施する。フィールドワーク先は、独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センターと、民間の事業者（いずれも都内を予定）を予定している。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>本講義を通じて国際協力の具体的な展開に関する知識とともに、国際協力に携わる人材に必要な能力や資質への理解を深めるとともに、今後の学習や留学等へのモチベーションを高めることを到達目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>第1講：イントロダクション</p> <p>第2講：事前学習</p> <p>第3講：事前学習</p> <p>第4講：事前学習</p> <p>第5講：事前学習</p> <p>第6講：事前学習</p> <p>第7講：現地調査</p> <p>第8講：現地調査</p> <p>第9講：現地調査</p> <p>第10講：現地調査</p> <p>第11講：報告まとめ</p> <p>第12講：報告まとめ</p> <p>第13講：報告まとめ</p> <p>第14講：報告会</p> <p>*フィールドワークの日時は第1講の授業の際に説明する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>フィールド実習には必ず参加すること。履修者数の上限は15名とし、先着順とする。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>準備学習として、事前に配布する論文・文献を読んでから講義に臨むこと。フィールド実習を2回に分けて行実施するので必ず参加しレポートを作成すること。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に指定なし</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『国際協力の戦後史』荒木光弥（東洋経済新報社）2020年</p> <p>『国際協力キャリアガイド 2020-21：世界をアップデートしよう』（国際開発ジャーナル社編）2020年</p> <p>『めさせ、世界のフィールドを一国際公務員の仕事』小沼廣幸（岩波ジュニア新書）1997年</p> <p>『裏道国際派』米坂浩昭（新潮社）2000年</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>個別講評を実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>この授業は、グループワークによる実践形式の授業であることから、日々の授業への取り組みを重視し、授業内でのディスカッションとプレゼンテーション（60%）、個人期末レポート（40%）で評価を行う。</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>履修者数の上限は15名とし、先着順とする。</p> <p>そのため履修登録を行っても人数制限の関係で履修が認められないことがある。必ず時間割公開後の時間割に当該科目が記載されているか確認をすること。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型短期海外実習	1～4年	夏季・春季 (集中)	1単位	その他	国際教育センター長
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修または海外実習等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約2週間以上（実学習時間が1350分以上）の文化講座、語学研修または海外実習等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと（夏季プログラムは7月中旬、春季プログラムは1月中旬を予定）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行う。 入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なる（推奨プログラムホームページ参照）。 過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行わない。 夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>留学先からの提出書類、留学報告書などをに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>9 その他 (Other)</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習	1～4年	夏季・春季 (集中)	2単位	その他	国際連携機構 特任教員
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>明治大学国際教育センターが実施ならびに選定する海外大学等での専門科目や文化講座、語学研修またはキャリア研修等の実習プログラムに参加し、派遣先の社会状況における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休暇を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における文化講座、語学研修または海外キャリア実習等を行う。プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、以下のサイトを確認すること。</p> <p>グループ渡航型：https://www.meiji.ac.jp/cip/shortterm_programmes.html</p> <p>個人渡航型：https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>※本学ホームページ：メニュー>「国際連携・留学」>「海外留学を希望する方へ」>「海外留学プログラム」</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>対象プログラムには「グループ渡航型」と「個人渡航型」の2種類がある。</p> <p>(1)「グループ渡航型」とは、明治大学の学生を対象に参加する「グループ」を募集するプログラム。留学先への往路・復路ともに定められた期日に出発・帰国するため、集団行動が求められる。初めての海外留学に挑戦する学生には安心でおすすめ。</p> <p>(2)「個人渡航型」とは、明治大学の学生に限らず参加する「個人」を募集するプログラム。留学先への往路・復路は参加者の希望により、長期休暇の範囲内で各自が手配できる。自由度はあるが主体性・計画性を問われるため、海外留学や海外旅行に慣れている学生向け。</p> <p>(3) プログラムの所定の事前学習を必ず受講すること。</p> <p>(4) 単位認定（履修）に関する詳細は、参加者対象のオリエンテーションにて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(5) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（上記サイト参照）。</p>					
<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>プログラムの所定の事前学習・事後学習で参加決定者へ指示する。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>					
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>					
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンズ)</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版) 『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)</p>					

<p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)</p> <p>その他の参考図書等については、以下のサイトを確認すること。</p> <p>https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/eng_programmes/referencebooks.html</p> <p>※本学ホームページ：メニュー>「国際連携・留学」>「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」>「学習に役立つリンク集・参考図書」</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>派遣先からの提出書類、留学報告書などに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、総合評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習 (20%)</p> <p>※出発前に指定のオンデマンド講義を視聴し、指定期間内に課題を提出する。</p> <p>(2) 派遣先からの評価 (70%)</p> <p>※正当な事情により時間数を満たせずに修了証が提出できない場合は、その他に積極的に研修に参加した証拠の提出を求める。</p> <p>(3) 事後学習 (10%)</p> <p>※帰国後、指定期間内に課題を提出する。</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>明治大学国際教育センター主催の海外研修プログラム（対象プログラム）は以下の通り。</p> <p>【テーマ特化型研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> ベトナム国家大学ホーチミン校（ベトナム）、アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）、テンプル大学（アメリカ）、ペンシルベニア大学（アメリカ）、ケンブリッジ大学コーパスクリスティ校（イギリス） ●個人渡航型 <ul style="list-style-type: none"> オックスフォード大学 St Hilda's College（イギリス）、オックスフォード Union（イギリス）、サンフランシスコ州立大学（アメリカ） <p>【海外語学研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> ワシントン大学（アメリカ）、アデレード大学（オーストラリア）、ユーコン大学（カナダ）、プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、ビクトリア大学（カナダ）、オークランド大学（ニュージーランド）、エンデラン大学（3・6週間、オンライン）（フィリピン）、ペンシルベニア大学 ELP（日本・和泉キャンパス）、シェフィールド大学（イギリス）、ヨーク大学（カナダ）、マクマスター大学（カナダ）、ウィーン大学（オーストリア）、リヨンカトリック大学（フランス）、バルセロナ自治大学（スペイン）、北京大学（中国） ●個人渡航型 <ul style="list-style-type: none"> チチェスターカレッジ（イギリス）、LSI ポーツマス英語研修（イギリス）、Kings オックスフォード英語研修（イギリス）、トロント大学（カナダ）、CCEL クライストチャーチ英語研修（ニュージーランド） EF (Education First) (世界各国)、サイモンフレーザー大学(カナダ)、フィッシャーカレッジ大学(アメリカ)、マウント・セント・ビンセントカレッジ（アメリカ） <p>【海外実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ渡航型 <ul style="list-style-type: none"> タイ・ボランティア（タイ）、サンフランシスコで学ぶソーシャルイノベーションプログラム（アメリカ）、海外キャリア研修（ベトナム、オーストラリア、タイ）、UTM Study Tour（マレーシア）、Study Tour（ベトナム）、タイ言語&文化プログラム（タイ）

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型海外実習	1～4年	夏季・春季 (集中)	2単位	その他	国際教育センター長
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修または海外実習等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約4週間以上（実学習時間が2700分以上）の文化講座、語学研修または海外実習等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html</p> <p>また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。</p> <p>(2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと（夏季プログラムは7月中旬、春季プログラムは1月中旬を予定）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行う。 入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なる（推奨プログラムホームページ参照）。 過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。 過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行わない。 夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。 <p>(3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（推奨プログラムホームページ参照）。</p>					

<p>4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)</p> <p>各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）</p> <p>『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版）</p> <p>『英語で説明する日本の文化—これ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研）</p> <p>『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>留学先からの提出書類、留学報告書などをに基づき、必要に応じて実施する。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。</p>
<p>9 その他 (Other)</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)	2～4年	秋学期	8単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>本講座は、海外実務研修を体験する「短期海外実習」、「海外実習」の継続・発展型として実施される、海外でのより長期の実践的学習（実務実習）を行う講座であり、学生は、世界の平和と開発を支援するための国際機関である「国連ボランティア計画 (UNV: United Nations Volunteers)」を通じて、開発途上国における同機関事務所で実務実習を行うことにより、国際協力や開発の基礎知識や異文化に対する理解力・適応力を養うことを主たる目的とする。</p> <p>なお、本講座の学習効果を高めるために、派遣前研修や派遣期間中の実務教育を行う「海外実習課題研究」を同時に履修することを履修条件とする。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>参加者は、開発途上国での様々な問題を改善するための多様なボランティア活動に従事し、国際協力や開発の基礎知識や異文化に対する理解力・適応力とともに、業務に従事するための外国語コミュニケーション能力、交渉力、積極性、柔軟性、問題解決能力などのグローバル人材として必要な素養を養うことを目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>国連ボランティア計画 (UNV) のコーディネートにより、約5ヵ月間、主に開発途上国の国連諸機関に派遣される。派遣先国はアジア、アフリカ、欧州、大洋州の各国いずれか。</p> <p>具体的には、開発途上国の国連事務所、政府機関または NGO などが実習先となる。ウェブサイトやポスター作成などの広報活動やプロジェクト運営支援などを通じて、教育、保健衛生、環境、ジェンダー、貧困削減などの活動に携わる。1日の勤務時間は、週5日の約6時間程度(週30時間程度)。現地での滞在先は、原則として、UNVの各現地オフィスが指定（推奨）する民間アパートである。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員 選考を通過した学生のみ。</p> <p>(2) 履修要件 書類選考及び面接選考の上、学内推薦候補を決定する。 学内推薦候補者は、希望する国際機関の現地事務所担当者による選考を経て、派遣が決定する。なお、応募のために以下の要件を満たす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣年度の9月1日時点で20歳以上26歳未満であること。 ・TOEFL iBT 72, TOEIC L&R 785, IELTS 5.5以上の英語力を有すること。 ・最低限のPCスキル (Word/Excel/Power Point) を有すること。 ・開発途上国の厳しい異文化環境において生活する上で心身ともに健康上の問題がないこと及び困難な状況に対応できること。 ・本プログラムに係る全てのスケジュールに参加できる者。 ・開発途上国へ2週間以上の渡航経験 (留学、在住) を持つことが望ましい。 ・ボランティア経験があることが望ましい。 ・本学の外国留学に関する広報活動及び本プログラムに係る各種調査等の協力で卒業後も含めて協力の同意ができること。 <p>なお、「海外実習課題研究 (国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。</p>					

<p>(3) 費用 渡航費や一定の現地生活費等を含む参加費用は、明治大学から UNV を通じて支給される。 国内研修に係る費用、海外旅行保険、予防接種および出入国のために必要な費用は自己負担となる。</p> <p>(4) 派遣日程 2024年9月中旬～2025年2月（渡航日及び帰国日は、派遣国により異なる。） プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki_kaigaijisshu/を必ず確認すること。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に派遣先について自身で調べる。また、事前学習の復習として、事前に配布する英語の報告書やレポートの書き方 (表現・構成) の資料を熟読し理解すること。 研修中は配布資料をもとに、毎週提出を義務付けている業務報告書を作成する。担当教員によるフィードバックを参考にし、表現や構成を振り返り、次週の業務報告書の作成に活かすこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>特に定めない。</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>個別にフィードバックを行う。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 業務報告書 (Weekly Report) の評価 : 50%</p> <p>(2) 最終レポート及びプレゼンテーション : 50%</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>・派遣国 : 治安が比較的良く政情も安定しており、国連職員が単身赴任ではなく家族と共に転勤が可能な地域と指定している。 ただし、外務省海外派遣安全情報の危険情報レベルにおいて、派遣国の危険レベルが「レベル1」以下でなければ、原則、派遣は行わない。また、同レベルが「レベル2」に上がった場合には、原則、帰国となる。</p> <p>・語学やスキル : 各派遣先で必要とされる語学や ICT スキルなども必要に応じて習得すること。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習課題研究 (国連ユースボランティア・プログラム)	2～4年	秋学期	4単位	その他	三牧 純子
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>◀概要 (Course Summary) ▶</p> <p>本講座は、国連ユースボランティア・プログラムの派遣前に、約10日間の補強研修及び渡航前研修を実施し、同プログラム期間中に必要となる画像・動画編集、英文議事録の書き方等のスキルを養成すると同時に、国際開発論、教育開発論などの講義を通じて現場の状況を把握し柔軟な対応ができる即戦力を育成することを目的とする。</p> <p>日本と全く異なる開発途上国での多様なボランティア活動に従事することに伴い、「長期海外実習」派遣前の実務教育に特化した課題研究科目を履修することにより、海外での長期の実務実習をより効果的なものとする事が期待できる。</p> <p>なお、本講座の学習効果を高めるために、本課題研究の内容に沿った海外での長期の実務実習を行う「長期海外実習」を同時に履修することを履修条件とする。</p> <p>◀到達目標 (Course Objectives) ▶</p> <p>参加者は、長期海外実習に特化した課題研究（渡航前国内研修）を受講することにより、国際協力や開発における基礎知識やスキルを身につけるとともに、異文化に対する理解力・適応力の重要性や、多様な価値観を持つ人々との人間関係及びチームワーク構築の重要性、さらに自己の職業観を認識し、日本国内に留まらず、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>(1) 事前学習 (100分×全2回)</p> <p>第1回 (2024年7月中旬実施) は、海外での長期の実務実習に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要等について理解する。</p> <p>第2回 (2024年9月上旬実施) は、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。また、補強研修及び派遣前研修で習得したことについて振り返り、発表する。</p> <p>(2) 課題研究</p> <p>2024年8月に、関西学院大学が主催する「渡航前国内研修」において約10日間の補強研修及び派遣前研修の講座を受講する。</p> <p>(3) 事後学習 (100分×全1回)</p> <p>課題研究のまとめ (派遣学生全員が帰国後の2025年3月に実施予定)</p> <p>本講座の最終総括を行う。課題研究で学んだ理論と5か月間の実践を踏まえ、3月上旬に最終レポートにまとめ、3月に口頭報告する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 受講定員</p> <p>選考を通過した学生のみ。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>「長期海外実習」において実施する長期の海外実習プログラムへの派遣・参加が決定した学生を対象とするため、応募要件や語学レベル等については、「長期海外実習」における基準に準拠する。</p> <p>なお、「長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。</p>					

<p>(3) 費用</p> <p>補強研修・派遣前研修費として、5万円程度の負担が必要。また、関西学院大学への交通費及び宿泊費等の実費が必要。国連ユースボランティア・プログラムへの参加費用として、予防接種費の実費 (派遣国により異なる)、海外旅行保険および出入国のための諸費用が別途必要となる。</p>
<p>4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に配布する「2024年度派遣の手引き (明治大学)」を読み、不明な部分があれば、授業で質問すること。</p> <p>事前学習及び課題研究の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読むこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>関西学院大学指定の教科書</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社)</p> <p>『パリの国連で夢を食う。』川内有緒 著 (イースト・プレス)</p> <p>『えんぴつの約束― 一流コンサルタントだったぼくが、世界に200の学校を建てたわけ』アダム・ブラウン 著 (飛鳥新社)</p> <p>『世界で生きる力―自分を本当にグローバル化する4つのステップ―』マーク・ガーゾン 著 (英治出版)</p> <p>『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティープン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ)</p>
<p>7 課題に対するフィードバックの方法 (Feedback)</p> <p>個別にフィードバックを行う。</p>
<p>8 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20%</p> <p>※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 最終レポートによる評価：80%</p>
<p>9 その他 (Other)</p> <p>「課題研究」において、以下の点を守ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国連ユースボランティア」に派遣されるにあたり、全ての講義に出席が必要。やむを得ない事情で授業に参加できない場合は、必ず事前に申し出ること。 ・講義への遅刻、講義中の居眠りやスマートフォンの私的利用などは厳禁。 ・発言が求められる場面では、率先して発言するなど積極的に参加をすること。